

防災科学技術研究所の第4期中長期計画 防災科学技術のイノベーションの中核的機関を目指して



理事長 林 春男

はじめに

国立研究開発法人としての防災科学技術研究所にとって、最初の中長期計画となる第4期7年間のスタートしました。国立研究開発法人の目標は「研究開発成果を最大化すること」です。この期で防災科学技術研究所が何を指すかについてご紹介したいと思います。

防災科学技術の中核的機関とは

防災科学技術研究所の使命は、「防災科学技術に関する基礎研究及び基盤的研究開発等の業務を実施することにより防災科学技術の水準の向上を図ること」と防災科学技術研究所法にあります。それを受けて第4期の最大の特徴は、防災科研が「防災科学技術のイノベーションの中核的機関」となることが求められている点です。防災科学技術に関する総合的な研究機関となり、大学や他の国立研究開発法人、民間研究機関の研究開発成果を含めたわが国全体としての研究開発成果を最大化することが、防災科学技術研究所の果たすべき役割であると中長期目標に明示されています。

防災科研が果たす6つの役割

防災科学技術の中核的機関として、6つの役割をはたすことが求められています。

第1は、「中核的機関としての産学官連携の推進」です。防災科学技術に関する研究開発の「ハブ」として、関係府省、大学・開発機関、民間

企業等との連携・協働の強化です。

第2は「基盤的観測網、先進的研究施設等の整備・共用促進」です。S-netの整備が進み、DONETがJAMSTECから移管され、海陸統合した基盤的地震津波火山観測網の運用が今期からスタートします。E-Defenseを始めとする大型研究施設の効果的な活用も求められています。

第3は「研究開発成果の普及・知的財産の活用促進」です。国や地方自治体、民間企業などと共同で、研究成果の社会実装が期待されています。大型研究施設そのものが知財であるという認識に立ち、産業界のニーズに応えた性能証明活動を実施したいと考えています。

第4は「研究開発の国際的な展開」です。海外の研究機関や国連機関との連携の強化、対象フィールドとしてASEAN地域を中心とした国際ネットワーク強化を図ります。

第5は「人材育成」です。教育機関ではないので、単体での直接的な試みには限界がありますが、国民一人一人が自らの判断で安全確保行動がとれるように防災リテラシーを向上させるための方策の開発は重要な使命です。

第6は「防災行政への貢献」です。防災科学技術研究所は、災害対策基本法に基づく指定公共機関です。平時の調査研究成果を提供や発信に加えて、災害発生時には関係機関へ迅速な情報提供が求められ、平成28年熊本地震では国の現地災害対策本部のメンバーとして活躍しています。

中核的機関を目指す組織編成

防災科学技術の中核的機関としての役割を果たすために、3つの研究開発事業を推進します。第1は「災害をリアルタイムで観測・予測するための研究開発」、第2は「社会基盤の強靱性の向上を目指した研究開発」、第3は「災害リスク低減に向けた基盤的研究開発」です。

研究開発事業を効果的に推進するために、総務、企画、研究の3つの機能を組織化しました。総務は、公平公正で透明性の高い組織運営を目指し防災科研内部の活動を所掌します。企画は、対外的な折衝、対外的な情報発信など、社会における防災科研の存在価値を高める活動を所掌します。そして、研究推進のために、研究部門と基盤的研究開発センターを設けました。

基礎研究部門と基盤的研究開発センター

研究部門は基礎研究を扱います。個々の研究者としての専門性と自律性をもっとも活かせる、いわば本籍地です。基礎研究部門の下に研究室を設けることも可能にしました。また、複数の研究室が集まってプロジェクトを起こすことも可能です。

基盤的研究開発センターには、3つの異なる性格を持つセンターがあります。第1は、「事業継続センター」です。安定的、継続的な事業の実施を目的としています。「地震津波火山ネットワークセンター」とデジタル情報を統合的に扱うライブラリー機能を持つ「総合防災情報センター」の2つが該当します。

第2は、「性能検証センター」です。防災科研が有する知財としての「先端的研究施設」である大型降雨実験施設、大型耐震実験施設、雪氷防災実験施設及び実大三次元震動破壊実験施設を利活用した性能認証を行い、産業界のニーズ

に応えた社会実装を目指すセンターです。

第3は「研究事業センター」です。大型外部資金等による革新的な研究開発プロジェクトの実施を目的としたセンターです。現在、SIPで実施している「レジリエント防災・減災研究推進センター」、JSTの支援を受けながら始まった「気象災害軽減イノベーションセンター」、今年度から文科省内局予算で始まる「火山研究推進センター」が現在活動しています。

どれも有期のプロジェクトですので、センターの内容は時とともに変化します。できるだけ多くのセンターが活動するべく努力します。

競争的資金による研究プロジェクトは常に存在するとは限りません。そこで基礎研究部門での研究シーズをもとに、積極的に競争的なプロジェクトに応募し、採択されたときはプロジェクトの推進に邁進するという方針で、研究成果の最大化を図りたいと思います。

経営陣としての覚悟

経営陣としては、明確な目標を掲げること、所員の待遇改善に努めること、コミュニケーションを活発化することを目指して、柔軟かつ効率的なマネジメント体制を確立し、業務の効率化を図って行きたいと思っています。この点についても研究所の皆さんと相談しながら進めたいと思っています。

防災科学技術研究所が真の意味で防災科学技術のイノベーションの中核的機関と自他ともに認められ、我が国の防災科学技術に関する研究開発成果を最大化し、災害に強い社会の実現を目指して、最大限努力を行いますので、引き続き皆さまのご協力をよろしくお願いします。